

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和七年一月句会(第一五二回)

兼題 「除夜の鐘」

催日 令和七年一月二十五日

開催場所 生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

(四 点 句)

●除夜の鐘あまねく闇を打ち負かせ 小牧

選評：昨今の凶悪な犯罪や世界情勢に人の心の闇の深さを思い懐いています。『あまねく』『打ち負かせ』との強い調子に、平和平穏であれとの願いの強さと、除夜の鐘の重く力強い響きを受取りました。平和な世であることを切に願います。(寿歩記)

●初暦定位置飾りまた一年(ひととせ) 小牧

選評：この句は新年の心意気を詠んだものと察します。中句の「暦定位置飾り」にが、昨年良さを「今年も継続するぞ」との意気込みを感じます。誰もが新しい年に翔ける希望や期待を思って、迎える新年ですが、作者はそれを見事に俳句を通して表しているようです。そして下句の「また」で、今年の強い決意が表現されて、頑張りうと誓ったのでしよう。時の標を使い、とても平易な表現でまとめていますが上手にまとめています。(互酬記)

(三 点 句)

●除夜の鐘掉尾を飾る命の音 互酬

選評：除夜の鐘は行く年の最後を飾ると同時に、くる年に対する期待を刺激する。過ぎた憂き事は忘れて、これからは大事に生きていこうと呼びかけている。命の音という下五が適切にそれを表し、拙には可惜身命という語彙が浮かんでくる。きわめて深い意味が五七五の短い語句で表現されたこ

とを評価し、秀句とした。(徹心記)

(二 点 句)

名刹の除夜の鐘聴くスマホから	徹心
主張せぬ風情ゆかしき福寿草	徹心
初御籤ささる御言葉天青し	寿歩
初詣かっぱえびせんふるまわれ	夢心
葉牡丹の十二単で寒しのぐ	互酬
煩惱が少しは減ったか除夜の鐘	徹心
今は昔成人式は寮の友	小牧
ゆずりはや淑氣溢れる父隣り	艸寛
玄関に入るや蠟梅匂い立ち	夢心
大鷹の棲まひし森に新校舎	玄鳥

(一点句)

除夜の鐘米寿の年が明けにけり	夢心
新年は家持が師と一句読む	艸寛
寒菊の一叢凜と咲きにけり	夢心
ためらわず雪原の丘謳歌して	互酬

(一 点 句)

田んぼ道寺へ聞き耳除夜の鐘	艸寛
除夜の鐘四つまで拝む床の中	寿歩
除夜の鐘十二数へて眠り落つ	玄鳥
戻り来て若き隣人御慶かな	小牧
書初めや孫の隣で襟正し	艸寛
バス便の乏しき村へ旅始	玄鳥
湖面凍つ両家で向かふ千人風呂	寿歩
啓蟄の庭ふんわりと鳥一羽	互酬
ホームから手を振る子らや初電車	玄鳥
除夜の鐘若き時より身に沁みて	徹心
寒菊の足元さらに寒菊かな	寿歩

『句会後記』

メンバー全員元気に揃っての初句会でした。これまで回数を重ねてこれたのは、自分では気付けなかった読み方や感想を聞ける句会が楽しいからです。今年も楽しくやりましょう。よろしくお願ひします。(玄鳥記)